

—腸壁リパーゼのトリオレイン分解能  
に及ぼす胆汁酸の影響—

島根女短大 ○遠藤 幸子

1. 第3報(第13回日本家政学会中・四国支部総会研究発表要旨集参照)において、アセトン処理による二十日ネズミの小腸粉末を試料として滴定法によりオリーブ油およびトリオレインの分解実験を検討したが、オリーブ油およびトリオレインの分解は認められなかったため、更にこの問題を究明するため、小腸ホモジェネートを用いてトリオレインの分解実験を行なった。

2. 腸壁リパーゼの試料としては、二十日ネズミの小腸ホモジェネートを用い、分解実験の基質は0.1%トリオレイン溶液を用いた。試料の調製、トリオレインの分解実験、残存脂肪のエーテル抽出および Hydroxam 酸法による比色定量についての方法は第2報(第17回日本家政学会総会研究発表要旨集A46参照)と同様の方法で行なった。そしてトリオレインの分解状況を検討し、同時に濃度の異なる胆汁酸液を一定量加えて小腸ホモジェネートのリパーゼ作用に及ぼす胆汁酸の影響について検討した。

3. 本実験において小腸ホモジェネートのリパーゼ作用によりトリオレインは20分間に約30%分解されることを認め、稀い濃度の胆汁酸液添加によって分解は促進されることを認めた。ゆえにアセトン粉末による滴定法によってはオリーブ油およびトリオレインの分解は認められなかったが、本法により腸壁リパーゼは炭素数の多い脂肪酸よりなる脂肪にも作用する可能性が判明した。